

令和元年度(平成31年度)地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	Local Active-Learning Project 事業
事業主体 (連絡先)	木曾町 開田支所 開田教育事務所 (0264-42-3331)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	496,020円(うち支援金:396,000円)

事業内容

○インターナショナル・サマー・キャンプ(ISC)開催
8月5日から7日の夏休み期間を利用して中学校生徒と慶応大学生との異文化交流事業「インターナショナル・サマー・キャンプ」を開催。開田の課題を模索し、「開田版SDGs」を作成発表し地域の方と意見交換をした。

○夏期冬期学習支援事業の開催

本来の目的である生徒の学力向上のため放課後学習支援を行った。夏休み期間中は高校生や小学生の参加もあり、幅広い年代の学習支援を行った。

夏期8月8~20日、冬期2月10日~3月1日



【ISCの様子】

【目標・ねらい】

- ①学力の向上
- ②異文化交流により社会性を養う
- ③地域住民との世代間交流
- ④地域を学び地域活性を図る

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

○学生の夏期、冬期の長期休暇を利用して、生徒、児童の学力向上のため学習支援を行い、毎日10人前後の参加があった。

○サマーキャンプを行うことで、異世代異文化の交流を行い、成果を地域住民に向け発表・意見交換することにより、地域の現状や課題を見出し今後の活動目標を確認できた。

○サマーキャンプ期間中、学生が試住住宅を拠点として活動している。学生が地域行事に参加するなど交流の幅を広げ、地域に溶け込んだ生活がなされている。

※自己評価【B】

【理由】

学習支援などの参加小中学生数が、横ばい状態である。ただし、学校授業の理解度については年々上昇の傾向にある。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

学習支援、サマーキャンプの実施により先生・保護者からは、生徒の勉強することの意識、姿勢が変わった。また、生徒からは先生以外から教わることにより友達的な感覚で何でも聞いて教わることができて「楽しい」と、両方から好評を得ている。更なる活動を発展的に継続していくため、大学生が毎月第3日曜日に訪れ通年学習支援を行なう。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある